

歴史を画す李元總統七度目のご来日

常務理事・事務局長

柚原 正敬
ゆはら まさたか

◆白眉は衆議院議員会館の講演会

去る七月二十一日、李登輝元總統が昨年九月に続いて来日された。羽田空港に、本会会員らが日の丸の小旗や緑の台湾旗で歓迎する中、お元氣な様子で降り立られた。

今回、曾文惠夫人は体調を崩したため来日を中止されたが、李安娜、李安妮さん姉妹、李安妮さん夫君の頼國洲氏、若くして癌で亡くなった長男の李憲文氏夫人の張月雲さん、令孫の李坤儀さんの五人を伴って来日された。

總統を退任してから七度目の来日となり、五泊六日の充実した日程をこな



全議員の40.7%に当たる292人もの国会議員が参加して開催された李登輝元總統の特別講演会（衆議院第1議員会館、7月22日）

し、二十六日に仙台空港からご家族とともに元氣に帰宅された。

今回のご来日の白眉は、何といても衆議院第一議員会館で開催された講

演会であろう。主催は、安倍内閣の麻生太郎・財務大臣と下村博文・文部科学大臣の現役閣僚二人を含む、超党派の衆参国会議員四十人が発起人となって設立した「李登輝先生の講演を実現する国会議員の会」。昭和四十七年九月に日台が断交して以来、日本の国会議員が台湾要人を招聘するのは初めてであり、国会内施設で講演会を開くことも初めてだった。

そればかりではない。講演会には全国会議員の四〇・七%に当る二百九十九人が出席、秘書等の代理百十二人を含めると実に五六・三%に当たる四百四人が出席した。

七月二十二日の講演会当日、李元総統は宿泊先のザ・キャピトルホテル東京から車に乗り、衆議院第一議員会館に到着。玄関で待ち受けていた日台若手議連会長の岸信夫・衆議院議員が控室へ案内。ここで下村博文・文科大臣などとしばし歓談。それから岸議員が司会をつとめる講演会に臨み、「台湾のパラダイムの変遷」と題して話された（本誌4頁参照）。

講演が終わるや、なんと議員の方々が次々と立ち上がって拍手し始めた。音楽会などではよくスタンディングオベーションを見かけるが、講演会では珍しい。国民を代表する国会議員が惜しめない拍手を送り続けたのだった。

◆本会主催の歓迎晩餐会

国会での講演を終えられた李元総統は、ザ・キャピトルホテル東京において午後七時から開かれた本会主催の歓迎晩餐会に臨まれた。

おめでとう
王明理・理事と梅原克彦・常務理事

のW司会で始められた晩餐会には約二百人が集い、まず本会を代表して川村純彦・副会長が開会の挨拶を述べ、渡辺利夫・拓大総長と葛西敬之・J R東海代表取締役名譽会長が来賓を代表して挨拶。これに心えて李元総統がご挨拶（12頁参照）。引き続き、作家の曾野綾子さんが花束を贈呈し、JET日本語学校名譽理事長の金美齢さんに乾杯の発声をいただいた。

宴たけなわとなったところで、岸信夫・衆議院議員、小池百合子・衆議院議員、池田維・元交流協会台北事務所代表、秋元司・衆議院議員、ノンフィクション作家の門田隆将氏が次々と挨拶。

しかし、国会講演をこなされた李登輝元総統はさすがにお疲れのご様子。本来はこの後に和田政宗・参院議員と江口克彦・参院議員の挨拶も控えていたが、ここで中締めとした。

◆日本外国人特派員協会で記者会見

七月二十三日には、日本外国特派員

協会が李元総統を招いて記者会見を開催した。会場後方にはNHKやフジテレビ、TBSなどのテレビカメラが二十台ほど並び、二百人以上の記者が参加し、二〇〇七年来日時の記者会見を再現した観があり、まさに壯観の一語に尽きた。

冒頭、李元総統は「台湾の主体性を確立する道」と題し、台湾は大中華思想というまやかから脱出しなければならず、新しい時代の台湾人を自覚することで民主的かつ自由な台湾が作り



2007年来日に続く日本外国人特派員協会の記者会見では台湾の来歴と現状について話し、安倍総理の手腕を高く評価した（7月24日）

上げられると力説した。その後の質疑応答では、安保法案を巡る質問には、アジアの平和、世界の平和に貢献するとして支持を表明するとともに、安倍総理の手腕を高く評価。尖閣諸島の領有権をめぐる質問にも、これまでと同様「日本のものであり、台湾のものではない」と明言された。

◆最先端の放射線癌治療施設を視察

七月二十四日は東北新幹線に乗って郡山にある、二〇一八年度の治療開始を目指している「総合南東北病院・BNC T（ホウ素中性子補足療法）研究センター」へ。

総合南東北病院では、理事長の渡邊一夫氏をはじめ、瀬戸院一・BNC Tセンター長、吉本高志・最高顧問、寺西寧・院長などが出迎え、BNC T施設は瀬戸BNC Tセンター長が説明しながら案内。陽子線や重粒子などの放射線治療に詳しい李元総統は、台湾では癌による死者がもつとも多いことや



総合南東北病院では、癌治療に関心を持つ理由の一つとして、ご家族の写真を掲げ「写っている祖父や両親など、私以外は全員、癌で亡くなった」と説明された（7月24日）

自身の大腸癌の経験を挙げ、BNC Tの台湾導入に意欲を示された。

また、実際の治療に使用予定の加速器などを視察し、これまでの治療法とBNC Tによる治療法の違いや治療費などについて質問、瀬戸センター長が返答に戸惑う場面もあった。

◆瑞巖寺で句碑を参観

総合南東北病院を後にした李元総統は仙台へ。仙台駅では本会宮城県支部の方々をはじめ、百人を超える人々が手に手に日の丸や緑の台湾旗を持って出迎えた。これには李元総統も満面に笑みをたたえ、嬉しそうに手を振って



句碑建立はノーベル賞以上の荣誉だと挨拶し、山法師をお手植えされた李登輝元総統（7月25日、瑞巖寺）

応えられていたのが印象的だった。

翌二十五日は松島へ。まず瑞巖寺ずいがんじの隣に位置する円通院にて昼食。李元総統とご昵懇の江口克彦・参院議員ご夫妻や宮城選出の和田政宗・参院議員なども同席し、精進料理を召し上げられた。この松島行きには、本会の梅原克彦常務理事の差配により、仙台厚生病院の医師と看護師も同行し、また万に備えて救急車も同行していた。

食事を終えられた李元総統一行は、徒歩で句碑が建立されている瑞巖寺境



来日最終日、被災地の岩沼市にある千年希望の丘を訪れ
肅々と献花し、被災者の方々を励まされた（7月26日）

内へ。句碑の周りは落石防止の工事中だったが、フェンスに紅白の幕を張り巡らし、いかにもお祝いの式典という雰囲気の中、相沢光哉・日台親善協会会長、瑞巖寺の吉田道彦住職、大橋健男・松島町長などの挨拶に続いて李元總統が挨拶。その後、関係者と句碑の披露除幕式が行われ、李安娜さん、李安妮さんと植樹式に臨まれた。お手植えになった木は日本原産の山法師。

その後、聖和学園の高校生たちが野点で李元總統一行をもてなし、「花は

咲く」などを合唱して歓待した。

◆宮城県などが主催し歓迎の夕べ

この日の六時からは、宮城県と宮城県日台親善協会、そして本会宮城県支部の共催により、仙台勝山館で「李登輝先生を歓迎する夕べ」が開かれ、約二百五十人が参加。秋田や青森からの参加者も少なくなかった。

常盤木学園の生徒たちが「さくら」などを合唱する中を李元總統一行が入場。まず、村井嘉浩・知事が歓迎の挨拶を述べ、続いて前仙台市長の梅原常務理事が挨拶。それに答え、李元總統が句碑建立への感謝の念を表した。

乾杯は、仙台出身でJRR東日本会長の清野智氏。盛宴の中、和楽器演奏や各界からのスピーチなどが行われ、相沢光哉氏が閉会の挨拶を述べ、嶋津紀夫氏が三本締めで締めくくった。

◆千年希望の丘で献花

最終日の七月二十六日は、仙台でお

世話になった方々とホテル内で昼食を召し上がった後、東日本震災の被災地の一つ、岩沼市の千年希望の丘へ。

千年希望の丘では、菊地啓夫・岩沼市長や、この丘を造成した井口経明・前岩沼市長、丘の造成に協力した輪王寺住職の日置道隆氏、また被災者の方々が待っていた。

慰霊碑の前まで進んだ李元總統は、菊地市長が打ち鳴らした鎮魂の鐘の音が残る中を肅々と献花。その後、仮設テントに待機していた被災者の方々の手を握りながら「大変だったと思うがよく頑張ってくれました。ご苦労さまでした」と励まされた。

その後、李元總統一行は仙台空港へ。空港には村井知事夫妻がお見送りに来ていて、貴賓室で一時間ほど談笑。その後、搭乗するエバー航空機に向かわれると、はからずも「李登輝先生、万歳」の聲が挙がった。万歳の声を後に機内に入って行かれ、つつがなく全ての日程をこなして帰台された。